こんにちは、スドー君

山木 海絵子 東京都 四九歳
小谷 智子 絵

高一のとき同級だったスドー君は
無口な人だったから　話したことはない
お父さんが歯医者さんで
歯学部を目指していて
虫歯が一本もなかった

というようなことを　私は一切忘れ
三十数年　名前も顔も　思い出すことなく
これから先　思い出す予定もなかった

七月の終わり
新聞の「震災で亡くなられた方」の欄で
名前を見つけるまでは

ネットで調べて分かったのは
スドー君が歯科医になって
海沿いの病院に勤めていたこと
患者さんと医療スタッフに
助かった人がいなかったこと

卒業の日
言葉を交わすこともなかった
友達未満の人たち
歳月の底で
いつしか化石になっていた　思い出

だから　さよならは　言わない

こんにちは
十六歳のスドー君
そして
グスコーブドリのように逝ってしまった
四十九歳のスドー君
こんにちは